

あとがき

東京高等師範学校の校長を二三年半務められた嘉納治五郎先生の生誕百五〇周年に際して、筑波大学として記念事業を行うことになりました。

二〇〇九年一月と二〇一〇年六月に先生の功績を紹介する記念シンポジウムを開催し、また、大学の教養教育として、先生に関する総合科目を二〇一〇年より開設しました。そして文化勲章受章者、朝倉文夫氏による先生の銅像も筑波キャンパスに二〇一〇年一月に設置されました。このような記念事業の一貫として、教育者としての先生についてまとめた記念出版を行うことになり、二〇〇九年夏から着手されました。

本書の書名は『気概と行動の教育者 嘉納治五郎』と決定されました。嘉納先生は座して瞑想に耽る思想家ではなく、常に行動され、世界の人々と交わり、その中でさらに自身の考えを深化してそれをまた広める、というまさに、気概と行動力にあふれた教育者であつたからであります。

柔道の創始と世界への普及において高名な先生ですが、柔道以外でも、留学生教育や教育改革、生涯スポーツやオリンピック・ムーブメントの推進にも力を尽くされました。

これらの業績を紐解くと、嘉納先生は常に未来志向であつたことがわかります。柔術から柔道を創始したのも、柔道を通してより良い社会を築くことを最終的にめざし、「精力善用」「自他共栄」の考えを作り出されました。このことは、今日において何ら色あせることなく、むしろ若者のコミュニケーション力の低下が危惧される今日の社会において、重要なキーワードといえるでしょう。

留学生教育に関しても、他者に誠実に尽くしてこそ、自身も自国も繁栄するとの信念で受け入れました。その心は、今日の留学生受け入れの指針にも活かされています。生涯スポーツとして嘉納先生が最も力を入れた長距離走と水泳は、日本人の最も愛好するスポーツになっています。オリンピック・ムーブメントへの参入も、その後日本が夏・冬合わせて三回もオリンピック競技会を開催したことに示されているように、嘉納先生の開かれた道を日本は進んでいったのでした。

国際オリンピック委員会やユネスコは、繰り返し、全世界の国々が、体育の授業を必修にするよう訴えています。日本の小学校以上の学校における体育授業のみならず、課外活動やスポーツの発展ぶりを思うとき、先生の打たれた手は一〇〇年以上先を見越していたといえるでしょう。

嘉納治五郎先生の伝記については、横山健堂による『嘉納先生伝』（講道館、一九四一年）と、諸橋轍次編集による大著『嘉納治五郎』（講道館、一九六四年）があります。後者のあとがきには、「若し今後高明の識者が、根拠ある本書を基として筆を執り、神采奕々たる嘉納治五郎先生の真の姿を描き出すなら、それこそ必ずや万人を益し百世を教ふるものとなるう」と書かれています。本書はともそのような水準にはありませんが、読者の方が嘉納先生の考えと行動の跡を理解し、それを今後活かしていただければ、これにすぐるものはありません。

最後になりましたが、本書の出版の労をおとりいただきました関係各位に厚くお礼申し上げます。特に筑波大学出版会前編集長の谷川彰英氏はじめ、同出版会及び丸善プラネット株式会社の皆様には大へんお世話になりました。ここに謝意を表します。

二〇一一年四月